氏　　名	渡邊　寛
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博甲第　９１０７　号
学位授与年月	平成　３１年　３月　２５日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	男性役割態度の多側面的検討 ――4 領域モデルの提唱――
主　　査	筑波大学教授　文学博士　松井　豊
副　　査	筑波大学教授　博士（心理学）佐藤　有耕
副　　査	筑波大学准教授　博士（心理学）外山　美樹
副　　査	文京学院大学教授　博士（心理学）伊藤　裕子

論文の内容の要旨

渡邊　寛氏の博士学位論文は，男性役割態度を多側面的に検討し，各側面の男性役割態度がどのような要因により影響され，男性の対人関係や精神的健康にどのように影響するかを検討したものである。その要旨は以下の通りである。

（目的）

著者は，「男性の生きづらさ」の原因の１つとして，男性役割があると指摘している。しかし，これまでの先行研究には，以下の問題点があると指摘している。第１に，伝統的な男性役割と新しい男性役割が整理されていなかった点，第２に，男性役割の構造を踏まえて，男性の男性役割態度がどのような要因により影響されるのかが明らかではなかった点，第３に，男性役割態度のどの側面が関係性に影響するかや，男性が男性役割をどのくらい求められ，関係性や精神的健康にどのような影響があるのかが，統合的に明らかになっていなかった点の３つの問題点を指摘している。本論文では，以上の問題点を踏まえ，第１に，伝統的な男性役割と新しい男性役割の側面を整理し，各態度尺度を作成して，２つの男性役割の関係や特徴を検討すること，第２に，男性役割の構造を踏まえて，男性の男性役割態度がどのような要因に影響されるかを検討すること，第３に，男性の男性役割態度と，他者からの男性役割期待・要求により，男性の対人関係や精神的健康にどのような影響がみられるのか検討することを目的としている。

（方法）

研究１では，先行研究をもとに伝統的な男性役割の側面を整理し，導出された側面に基づいて，伝統的な男性役割への態度を測定する尺度を作成して，同尺度の信頼性と妥当性を検討している。

研究２では，自由記述調査と先行研究をもとに整理し，新しい男性役割への態度を測定する尺度を作成し，同尺度の信頼性と妥当性を検討している。

研究３では，伝統的な男性役割や新しい男性役割を意識した時の認知や感情について，面接調査

により探索的に検討している。
研究 4 では，親子関係，恋愛関係，職場の人間関係，夫婦関係を取り上げ，男性役割態度と男性の対人関係や精神的不健康の関連を検討している。
研究 5 では，伝統的な男性役割や新しい男性役割への態度の全体的な傾向および 2 つの男性役割の関係を検討している。また，2 つの男性役割が，社会においてどのように表れているかについて，NHK 朝の連続テレビ小説を取り上げ，検討している。
（結果）
研究 1 では，伝統的な男性役割が，「社会的地位の高さ」，「精神的・肉体的な強さ」，「作動性の高さ」，「女性的言動の回避」，「女性への優位性」の 5 側面から成ることが明らかにされ，各側面に沿った尺度を作成して，一定の信頼性と妥当性が確認されている。
研究 2 では，新しい男性役割が，「女性への気遣い」，「家庭への参加」，「他者への配慮」，「強さからの解放」の 4 因子から成ることが明らかにされ，各側面に沿った尺度を作成して，一定の信頼性と妥当性が確認されている。
研究 3 では，男性役割を意識した時の認知や感情が，「消極的受容」，「肯定的感情・取り入れ」，「否定的感情・拒否」の 3 種類あることが明らかにされ，他者から男性役割を求められると否定的に感じ，拒否しやすいことが示唆されている。
研究 4 では，以下の 4 点を明らかにしている。第 1 に，男子大学生の男性役割態度は，父親の学歴や働き方，母親の伝統的な男性役割期待により影響を受け，母親の伝統的な男性役割期待を感じるほど，母親との関係満足度や精神的健康を低める。第 2 に，男子大学生は，概ね恋人の期待に沿った男性役割態度を有しており，結婚可能性が高まると，伝統的な男性役割態度を肯定的に捉えるようになる。第 3 に，働く男性の男性役割態度は，組織風土の影響を受け，「社会的地位の高さ」や「他者への配慮」は，職務肯定感を高め，「女性的言動の回避」や「女性への優位性」，「家庭への参加」，「強さからの解放」は，上司への不信感や職場での居心地の悪さを高め，上司から男性役割を強く求められていると感じると，男性は，職場感情や精神的健康を低める。第 4 に，有配偶男性の男性役割態度は，妻の就業形態や年収に影響され，「家庭への参加」や「強さからの解放」に肯定的で，「女性への優位性」に否定的な態度を有する男性ほど，夫婦関係満足度が高く，妻から夫や父親としての役割を強く求められていると感じると，夫婦関係満足度や精神的健康を低める。
研究 5 では，男性役割のうち，どの年代でも肯定的な側面，どの年代でも否定的な側面，上の世代ほど肯定的な側面の存在が明らかにされ，2 つの男性役割の関係が両立，相反，無関連の 3 種類あることが明らかにされた。また，朝ドラの分析から，男性役割の各側面が，社会を反映していることが確認された。
（考察）
以上の実証的検討から，著者は、男性役割態度の構造と機能をまとめた 4 領域モデルを提唱している。その上で，男性は，異性や働く組織の影響を受けて多くの男性役割を志向し，公的場面でジレンマを感じたり，公私ともに対人関係を悪化させるために，生きづらさを感じると考察している。最後に，研究領域への貢献と社会的含意，限界と今後の展望について述べている。

審査の結果の要旨

（批評）
本論文は，男性役割を，伝統的な男性役割と新しい男性役割に区別し，それぞれを構成する複数の側面を詳細に検討していた。その上で，各側面の男性役割態度に影響する要因と男性の対人関係や精神的不健康との関連を検討し，それらをモデル化していた。これらは，性役割態度研究，男性役割研究，組織研究の発展に寄与するものと評価された。
平成 30 年 12 月 27 日，学位論文審査委員会において，審査委員全員出席のもと論文について説明を求め，関連事項について質疑応答を行い，最終試験を行った。その結果，審査委員全員が合格と判定した。
よって，著者は博士（学術）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。